

バフマン・ザキプール
Bahman Zakipour

1984年、テヘランに生まれ、アザド大学で哲学の勉強を始める。学士号取得後、勉学の継続のため、2008年に日本へ留学。2011年まで、東京大学大学院人文社会系研究科イスラム学研究室の研究生として在籍。その後、大正大学に入学し、2013年に宗教学専攻で修士号を取得。2013年から2017年まで、東洋大学にて哲学を専攻し、博士号を取得。

大学での学業修了後、約2年間、放送大学の非常勤講師として勤務。2018年に(株)Kimiya (旧：(株)Genza) を設立。2019年から、明治大学の兼任講師、その他研究所の非常勤講師として勤務し、現在に至る。

【著書】

1. 「現代イランにおける諸宗教の共生の実態と課題」『宗教の壁を乗り越える—多文化共生社会への思想的基盤』編者：宮本久義・堀内俊郎、ノンブル社、2016年。
2. 『井筒俊彦の比較哲学：神的なものと社会的なものとの争い』知泉書館、2019年。

【学術論文】

1. 「井筒俊彦の東洋哲学における〈歴史〉の意義—アンリ・コルバンの哲学が井筒に与えた影響について」『比較思想研究』第42号、2016年。
2. 「井筒俊彦の東洋哲学とスフラワルディー哲学」『宗教哲学研究』第33号、2016年。
3. 「アンリ・コルバンとイラン革命」『地域文化研究』第17号、2016年。

【その他の論文】

1. 「テヘラン—様々な文化が共生する場所」『NARASIA Q』 第5号、2013。
2. 「イスラームにおける人道思想—シーア派の観点から」『人道研究ジャーナル』第7巻、日本赤十字国際人道研究センター、2018年。

【翻訳・編集】

1. 藤田正勝「比較哲学の意義と可能性」（ペルシア語訳）、季刊誌 *Ketab-e Mah-e Falsafe*、No.63、2012年。
2. 小野純一「井筒俊彦哲学の中心意味」（ペルシア語訳）、月刊誌 *Ettelaat-e Hekmat va Marefat*、No.111、2015年。
3. 永井晋「「東洋哲学」とは何か—西田幾多郎と近代日本の哲学」（ペルシヤ語訳）、季刊誌 *Ketab-e Mah-e Falsafe*、No.83、2015年。
4. Shayegan.Yegane. “The Accidentality of Existence in Avicenna and its Critique by Averroes.” in *Journal of Persianate Studies*, edited by Bahman Zakipour and Samaneh Gachpaziyan. Leiden: Brill, 2017.
5. 司馬遼太郎・井筒俊彦「二十世紀末の闇と光」（ペルシア語）、月刊誌 *Bokhara*、No. 135, 2020年。

【科学研究費助成事業】

平成30年度井上円了記念研究助成(刊行の助成)